

茨木市次世代育成支援行動計画（第4期） 子ども・子育てワークショップ実施要領

1 ワークショップの実施目的

- 今回実施するワークショップは、事務局が意見・アイデアを求めたいテーマについて、参加者が自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的に実施します。
- したがって、急いで問題を解決したり、結論を出したり、終わりに合意形成をすることが目的ではありません。
- ワークショップは次の目的で実施します。

【ワークショップ実施目的】

- 全員に自由に意見を言ってもらう
- いつもと違う雰囲気話し合いをしてもらう
- 多くの知恵や考えを集める
- 参加者の考えや認識を深める
- 参加者どうしの新たな気づきを得る
- 参加者相互の理解を進める
- お互いの関係性の質を高めたい

2 ワークショップの実施方法

- 今回実施するワークショップは、上記の目的を踏まえ、「対話」と、対話から生まれた意見・アイデアを参加者が協力し合ってまとめあげる「KJ法を使ったグループワーク」を組み合わせ実施します。

ワークショップとは

- ワークショップとは、何かについてアイデアを出し合い、意思決定をする集まりで、会議の一種です。
- 通常の会議と異なる点は、だれもが自由に意見を言いやすいように工夫されていること、グループの創造行為と合意形成に焦点をおいていること、そして形式ばっていないことです。一見、ゲームのようにあそびの要素を持ちながらも皆で考えて、ある物事に判断をくだす集まりという意味で大変重要な会議です。
- ただし、今回は、結論を導き出したり、ある事柄に対する合意形成を図ることではなく、これからの茨木市の次世代が育つ環境づくりのために、地域社会がしなければいけないことのヒントを得ることを重視したワーキングを行います。

KJ法とは

- 問題解決のアイデアを出す手法で、ブレイン・ストーミングで出された事象を紙に1つずつ書き出し、グルーピングにより、小さなグループにまとめる。さらにそれを中グループ、大グループに分類していく。つまり、様々な関連する事象を、組み立てて図解していく作業。こうした作業を通じて、課題に対する解決策やヒントのきっかけを生み出していきます。

3 実施日時

○令和2年1月27日（月）午後6時25分から7時55分

※会議開始後約25分は報告事項等を説明

4 グループ分け

○1グループ（1テーブル）×6人でグループ分け、3テーブルセッティング

○各テーブルにファシリテーター（進行）2人配置

5 グループ別テーマ案とワーキングの概要

○テーマは、計画・施策の中でも特に重点的に取り組みたい、または取り組みの弱い施策に関するものとし、次の2つを予定します。

○できるだけ、各テーマに沿った具体的なデータや事例を引用し、対話のきっかけ、端緒をつかみ、参加者から多様な意見・アイデアが出るよう配慮します。

グループA いばらき版ネウボラに期待すること：利用者からみた切れ目ないサポート

①

平安女学院大学准教授（進行）	福 永 英 彦
子育て支援課長（進行）	中 井 誠
公立保育所保護者会連絡会会長	山 根 美 咲
私立保育園保護者	上 木 小 綾 子
茨木市PTA協議会（幼稚園）副会長	今 中 靖 子
子育てサロン関係者（耳原地区福祉委員会）	下 田 平 敬 子
青少年指導員連絡協議会会計	河 田 真 理 子

グループB・C 地域の支え合い:地域で多世代の支え合いについて考える
(教育・福祉・地域連携含む)

②

保育幼稚園総務課長（進行）	山 寄 剛 一
こども政策課長（進行）	東 井 芳 樹
20歳以上の市民	柴 田 桂
つどいの広場利用者	植 田 友 香
(株)西川印刷所	西 川 幸 子
ななつ星きらきらひろば（山手台地区福祉委員会）代表	上 道 元 子
私立保育園連盟会長	三 角 智 昭
民生委員児童委員協議会主任児童部会部会長	西 之 辻 功

③

保育幼稚園事業課長（進行）	村 上 友 章
学童保育課長（進行）	幸 地 志 保
放課後児童健全育成事業を利用している児童の保護者	西 松 由 香
就学後から18歳未満の子どもの保護者	山 戸 美 咲
PTA協議会（小・中学校）副会長	森 智 子
私立幼稚園連合会茨木高美幼稚園園長	大 森 智 美
子供の家施設長	舟 木 康 二
代表者連絡会耳原小学校区放課後子ども教室実行委員会	宗 清 勝 三

6 タイムスケジュール (★以外は共通)

《Aグループ》

ステップ	内容
オリエンテーション (2分)	○ワークショップについてレクチャー ※実施の目的・方法・概要 ※名札シールに所属と氏名を書き胸に貼る
★ワークショップ の実施 (75分)	○スケジュールの確認・グループ発表の発表者を選定 (複数人可) (5分) ■フィンランドのネウボラや市の取組、今後の展開について説明・対話(感想・意見)の実施 (15分) ■対話の中で、いばらき版ネウボラについて、思いついた現状の取組や問題になっていることをポストイットにできるだけたくさん書き出し、模造紙に貼り付ける(ポストイット1枚につき1つだけ) (20分) ■対話後、グループワーキング (30分) ①模造紙に貼られたポストイットを読みながら、同趣旨の意見をグループ化する(KJ法) <5分> ②実現の可否に関係なく、アイデア(実施の手法や大事な視点)などを書き出す<20分> ・書き出す時は、「〇〇だから、〇〇が必要」「〇〇だから、〇〇することが大切」などの表現でできるだけ統一 ③グループ化したポストイットをカラーペンで色分けし、見出しをつけ視覚的に関連性がわかるように整理する<5分> ■グループワークの成果を振り返る (5分) ①参加者どうしで感想を述べ合う ②発表のポイントを整理する
グループ発表の実施 (10分)	■成果をグループ間で共有するため、グループワークの成果発表(1グループ×3分程度)
閉会あいさつ (3分)	福永会長から所感を含めた閉会のあいさつ <全体で1時間30分>

《B・Cグループ》

ステップ	内容
オリエンテーション (2分)	○ワークショップについてレクチャー ※実施の目的・方法・概要 ※名札シールに所属と氏名を書き胸に貼る
★ワークショップ の実施 (75分)	○スケジュールの確認・グループ発表の発表者を選定 (複数人可) (5分) ■参考資料について説明・対話(感想・意見)の実施 (5分) ■対話の中で、地域の支えあいについて、地域での取組 や問題になっていることをポストイットにできるだけ たくさん書き出し、模造紙に貼り付ける (ポストイット1枚につき1つだけ) (20分) ■対話後、グループワーキング (30分) ①模造紙に貼られたポストイットを読みながら、同趣 旨の意見をグループ化する(KJ法) <5分> ②実現の可否に関係なくアイデア(どんなことができ るか)などを書き出す<20分> ・書き出す時は、「誰と(個人や地域、組織)でどんなことが できるか」の表現でできるだけ統一 ③グループ化したポストイットをカラーペンで色分 けし見出しをつけ視覚的に関連性がわかるように 整理する<5分> ■できたものを踏まえて、第4期計画のキャッチフレー ズを考えてみる (10分) ■グループワークの成果を振り返る (5分) ①参加者どうしで感想を述べ合う ②発表のポイントを整理する
グループ発表の実施 (10分)	■成果をグループ間で共有するため、グループワークの 成果発表(1グループ×3分程度)
閉会あいさつ (3分)	福永会長から所感を含めた閉会のあいさつ <全体で1時間30分>